

23 市町等の主な課題と対応策

※ ()内は課題への市町・団体の対応状況等

(1) 市町社会教育費の現状

- ・ 小規模自治体であるため、予算確保が難しく、施設に十分な人員配置ができていない。(無人施設等については近隣の有人施設と連携し、利用者の利便性を図っている。)
- ・ 今後、愛媛国体や町誌編纂、運動公園改修事業などにかかる費用が大きくなる。年々、施設修繕など管理費が増大している。(事業の取捨選択と経費節減に努めている。)
- ・ 全体の予算に占める教育費の割合が小さい上に、社会教育費の教育費に占める割合は例年 20%前後である。事業の拡大や、内容の検討、思い切った方針の変更がしづらい現状である。(地域住民の協力を仰ぎ、資金をかけずに内容の充実が図れるよう工夫している。)

(2) 市町社会教育関係職員の現状

- ・ 所管する業務が年々増加している。(事業の見直しを行う。)
- ・ 事業量に対して職員数が少ない。(期間限定のアルバイトを採用している。)

(3) 市町社会教育委員の現状

- ・ 委員の高齢化が進んでいるとともに、同じ人が再任で長く職に就くなど、次世代につながる委員の選考が難しい現状である。(隔年の県外研修等さまざまな研修を通じて委員自身が社会教育に興味関心を持ち、他の方々にも伝えてもらうように尽力している。)
- ・ 様々な団体の長を充て職にしているため、1年で代わってしまう方が半数いる。(特に対応はしていない。)

(4) ボランティアバンク設置・ボランティア活動の現状

- ・ 参加者が固定化してきている。(分館に協力してもらい、1名から2名参加してもらうことにした。)
- ・ 現在、青少年のボランティア活動支援の事務局があり、子育て団体のイベントなどに依頼があれば、中学生がボランティアとして出ている。(来年度、学校に関わりたい気持ちを持った方を対象としたボランティアバンクを立ち上げる予定である。)

(5) 公民館運営審議会の現状

- ・ 平成 28 年度から公民館運営審議会を一本化している。

(6) 公民館施設・体制の現状

- ・ 正規職員数が減少する中、地域づくりの拠点として求められる役割は、年々大きくなっている。(事業の精選や経費の節減等の工夫をしている。)
- ・ 公民館専任職員の不在。(不在でも不便をかけないよう、必要に応じて職員が出向くなど工夫をしている。)

(7) 公民館利用の現状

- ・ 主催事業に関しては、地域によって利用状況が異なる。(広報誌や随時案内などを行っている。)

- ・ 利用者数の伸び悩み。(主催事業を増やすなどするほか、貸館の促進により、利用者増を図る。)

(8) 青年を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が減少している。(夏休み等を利用した講座の企画等)

(9) 女性(婦人)を対象とした学級・講座の現状

- ・ 新規参加者を増やしたい。(公民館だよりや会合等での呼びかけを行い、周知を図っている。)
- ・ 参加者が固定化、高齢化している。働く女性が多く、参加者が固定されている。(広報等での周知、呼びかけやホームページを利用した講座募集を行い、新規会員の募集に積極的に取り組む。企画運営への学級生の参画を行っている。)
- ・ 講座の開設については、時代の流れや地域の動向、さらに受講者のニーズ等を踏まえて企画運営しなければならない。(女性の向上が図られるよう講座内容を考え、予算内で企画運営していく。)
- ・ 2地域で事業を実施しているが、会場が自分の地区以外になるときは、交通手段がなく欠席する受講者も多い。(市内の路線バスを利用するよう呼びかけを行う。2地域の一方向に偏らないよう行う。)
- ・ 健康問題に関する講座のニーズが高い。(多様な実践活動への取組みや主体的な社会参加の促進を行っている。)
- ・ 男性も積極的に参加する傾向にある。(継続した活動の実践に取り組んでいる。)

(10) 成人を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が減少、固定化、高齢化している。(公民館だよりやホームページを利用した講座募集等で周知を図るほか、地域内外に広く参加募集を呼びかけている。企画運営への学級生の参画を行っている。)
- ・ 男性の参加者が少ない。(特に対策をとっていない。)
- ・ 若年層の参加者が減少している。(幅広い世代に興味を持っていただける事業内容の展開に努めている。)
- ・ 地域によって参加数の男女差が大きい。(リーダー養成講座と参加者の自覚促進を行っている。)
- ・ 講座の内容がマンネリ化してきており、そのため受講者も同じ人が多くなってきている。(新規講座を開設するなどして、目新しさを出して参加者の関心を引くようにしている。)
- ・ 成人を対象にどのような事業を提供すればよいか悩んでいる。(語学、教養(趣味)等を通じて、仲間づくりや地域の指導者等を育成するための事業展開を随時企画している。)
- ・ 学級生の意欲と資質の向上が課題である。(主体的な社会参加活動を促進している。)

(11) 家庭教育に関する講座の現状

- ・ 地域の子どもの減少などで参加者が集まりにくく、学級生が固定化されている。(公民館だよりに掲載し、関係諸団体に案内文を配布するなどの広報活動を行っている。)
- ・ 託児ボランティアが不足している。(福祉協議会との協力)
- ・ 学習内容や学習方法等にマンネリ化が生じているため、PTAとの連携・協力が必要である。父親の参加が必要と感じる。(望ましい家庭環境や家庭教育の在り方の追及や子育てやしつけ等についての講座を充実させる。)

- ・ 保護者の参加率が低い。(学校の参観日やPTA懇談会等の機会を活用して開催している。)
- ・ 学級の開催回数や参加者数が異なるので、開催回数や学習内容を検討する必要がある。(学習内容の充実と広報活動を行う。)
- ・ 参加者同士のコミュニケーションをとる機会をどう作っていくか。(少人数でのグループ学習や地域のいろいろな立場の人を交えて、学習する。)

(12) 高齢者を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者や内容が固定化傾向にあり、活動が低迷している。(高齢者教室を開催して意識の向上を図り、高齢者が参加して楽しく学べ、有意義な時間を過ごせるような事業内容を展開できるように努めている。ほかに横のサロンなどでつながりをもってもらったりするほか、ホームページを利用した講座募集をしている。)
- ・ 参加人数を増やしたい。(公民館だよりに掲載し、該当団体の会長、単位自治会長に周知のお願いをしている。)
- ・ 登録メンバーの出席率を高めることに苦慮している。(教室前には各リーダーがお誘いの電話連絡、訪問などを行っている。)
- ・ 男性の参加者が少ない。(夫婦での参加等呼びかけるほか、来館者への声かけで参加者を募る。)
- ・ 事業がマンネリ化している。(運営委員会を開催し、参加者のニーズに応じた活動ができるよう協議している。)
- ・ 各グループリーダーの高齢化による次期リーダーの育成が課題である。(4月に年間のスケジュールを提示して、あらかじめ予定を立てやすくしてもらう。)
- ・ 講座の開設については、時代の流れや受講者の希望、地域の動向を探りながら企画運営をしなければならない。(高齢者に役立つ講座内容を考え、できるだけ多くの情報を把握し、予算内で企画運営を行う。)
- ・ 2地域で事業を実施しているが、会場が自分の地区以外になるときは、交通手段がなく欠席する受講者がいる。(市内の路線バスを利用するよう呼びかけを行う。2地域の一方向に偏らないよう行う。)
- ・ 心身の健康に関する活動が中心となっているため、ボランティア活動等の推進が必要である。高齢者の交通安全・認知症予防等の学習が必要である。高齢者だけの活動ではなく、他の学級との交流も必要である。(生きがい活動づくりや高齢者の特技を生かした活動と世代間交流を行う。)

(13) 青少年の地域活動の現状

- ・ 参加人数を増やしたい。(公民館だよりに掲載し、関係諸団体に案内文を配布してもらっている。)
- ・ 対象となる児童の参加数が少なくなってきた。(内容の充実を図り、参加人数が少なくともリピーターが多く参加できるよう活動の充実を図る。)
- ・ 中学生の参加率の低下。また小学校の統合により小学生の地域行事への参加人数が減少した。(各種団体及び各地区での呼びかけ、地域行事の案内文の配布で参加を呼びかけている。)
- ・ 管内の児童数が少ないため、活動に参加する人数に限られ伸び悩んでいる。そのため固定化が進んでおり、内容もマンネリ化している。(学校に出向き、直接参加者募集のチラシを配布する・PR活動を行うなど、募集方法の工夫をしている。学校と連携して参加を呼びかけている。内容の見直しを行い、新たな取組みを実施している。)

(14) 子ども会の現状

- ・ 会員数の急激な減少によって運営が困難になる子ども会がある。(少人数でも対応できるような活動内容を工夫している。)
- ・ 低学年児童の増加に伴う活動内容の充実と仲間づくりの難しさを感じている。(子ども会の行事などに参加してもらうよう呼びかけを行っている。)
- ・ 年々、会員数(子どもの人数)が減っている。(特になし。)
- ・ 混住が進み、同和問題に関する住民(保護者)の意識が薄らいできている。(人権同和教育主任が当日の指導者に同行して、生徒への連絡調整を行っている。)
- ・ 家庭環境を主に、様々な観点で見て、何らかの困難のある生徒が多く、学習会当日の段階でメンバーを揃えることが容易ではない。(家庭環境を考慮しながら慎重に対応をしていきたい。)

(15) 目的少年団体の現状

- ・ 専任指導者、スカウトの確保。(定期的に体験入団の会を設けている。)
- ・ ボーイスカウト運動の啓発。(HPで活動の様子を公開したり、活動PR用のDVDを制作したりしている。)
- ・ 団のスカウト数が増えず、パトロール活動が困難である。(友だち増やそう作戦を各団で展開し、体験活動をしている。またSNSにて活動の紹介をしている。)
- ・ ヤングリーダーの育成・指導が行き届かず活性化に苦労している。(ヤングリーダーが参加できやすいよう日程調整をしている。)

(16) 青年団体の現状

- ・ 団員数が減少しており、活動・イベントがマンネリ化してきている。活動時間がなかなか取れない。(既婚者も継続して団員となることで活動を維持している。活動としては新しい活動やイベントを実施するようにしている。)
- ・ 団員が役場職員に偏っている。自治会制度が推進されるにつれ、自治会青年部が充実し、青年団そのものの存在が弱くなっている。(青年団活動の先進地への視察研修など、団員のモチベーションアップを考えている。)
- ・ 同職の青年グループにつき、横のつながりが少ない。(特になし。)

(17) 婦人団体の現状

- ・ 婦人会は解散して存在しない。(女性が構成員となっている団体をまとめた「女性団体連絡協議会」を構成している。)
- ・ 会員が高齢化している。(みんな仲良くをモットーに、地域に必要とされる団体を目指して活動をしている。地域内での会員募集に努めている。現在、地域が一つにまとまっている大きな要因であると思う。)
- ・ 会員数が減少している。平均年齢の上昇。(事業を行う際、会員だけではなく市民全体に呼びかけを行っている。また若い年齢層が参加しやすい活動を考えている。)
- ・ 若い世代の会員の確保が課題である。(子ども支援等(若いグループ)などへの活動範囲を広め、婦人会の活動を知ってもらい、学校PTAに対し連携を持ち、次世代につながる婦人会への関心を促している。)
- ・ 支部の役員決めに苦労している。(町の支部会長なども無理を言わずどうしても出られないときは決定事項の報告をするということで、役員に負担をかけないようにしている。)
- ・ 会員の高齢化や執行部の役員不足が課題である。(事業内容の見直しや役割分担により負担軽減を図るほか、子育て世代の母親が参加できる講座の開催や高齢者学習交流会の開催をしている。また、小学生を対象に伝統行事・郷土料理の継承を行っている。)

- ・ 会員の減少化と後継者不足。（関係諸団体や関連機関との協力を図り、地域に貢献する婦人会活動として後継者の育成に努める。また、現在活動している地域婦人会への加盟を呼びかけている。その他、歴代会長に声かけをしてもらっている。）
- ・ 加盟婦人会員数をさらに増やす。（お互いに情報交換をしながら、他の婦人会の取組みを参考に対策を考えている。）
- ・ 全会員のスキルアップを目標とする幅広い研修の機会の確保が課題である。（伝統と新しい文化との学びの場を持ち、充足感が得られる魅力ある婦人会活動を工夫する。）
- ・ 学校の統廃合により新しい活動の在り方を模索している。（子どもたちが地域の伝統文化に誇りをもって継承できるように、学校と話し合いを重ね、準備を整える。）

(18) 愛護班の現状

- ・ 会員数が減少しており、十分な活動を行えない地区がある。（PTAとも相談をし、愛護班編成について、検討を始める予定である。）
- ・ 毎年、愛護班長が交代するため、前年度の活動を踏襲することが多くなる。（市の「愛護班だより」を活用し、他地区の活動を紹介している。）
- ・ 活動に協力してもらいにくい家庭もあり、世話役の方が会費の集金等で苦労している。（活動への参加は強制ではないが、子どもの健全育成のための活動として理解を求めようPTA総会や地区別懇談会の機会を通して呼びかけるようにしている。）
- ・ 少子高齢化の進行に伴い子どもの数が減っているため十分な活動ができず、活動の回数や規模が縮小傾向にある。（会員や役員にできるだけ負担がかからず、気軽に参加して楽しめる事業を検討している。また、公民館と連携し、事業・イベント等の開催を行うなど活動の充実を図っている。班員数は減少しても、少ない人数で協力し合って活動している。）
- ・ 愛護班という名称ではなく、学団という区分で組織した班で子どもたちが楽しめる活動をしている。
- ・ 児童数（会員数）の減少傾向に伴い、行事を運営する上で負担が大きく、活動内容もマンネリ化している。（班数の検討や、PTA会員が構成員のため、PTA活動と兼ね合わせた取組みを行っている。）
- ・ 小学校の再編が進んでいるので、愛護班活動の在り方について考える必要がある。（愛護班員の知識と技術向上を図るため、指導者研修会を開催している。）
- ・ 活動中の児童や保護者のけがについて（愛護班保険に加入している班もある。）
- ・ 近年、親同士のつながりが薄くなり、愛護班活動のマンネリ化が進み、消化するだけの活動となる傾向がある。（協議会がないため、各団体に活動を任せているのが現状である。）
- ・ 少子化に伴う世帯、班員数の減少・愛護班の設置取りやめ。（いろいろな方向で検討をしているがいい方策がないのが現状である。）
- ・ 学校行事や地域行事との重なりを避けるための日程調整が難しい。（日程調整には、関係団体で早めに連絡調整を行っている。）

(19) PTAの現状

- ・ 会員が役員を公平に経験するために、毎年役員の交代を行う。毎年ほぼ全員が入れ替わるため前年度からの引き継ぎに課題がある。（引き継ぎファイルや引き継ぎデータを作成している。また引き継ぎ会を年度終わりと年度初めに設定している。）

- ・ 会員間でPTA活動の参加意欲に差がありすぎる。(活動は、専門部が中心に運営していくが、計画・運営の際に、会員の声を聞くように配慮する。学校のホームページや学校だよりなどで積極的に参加を呼びかける。)
- ・ PTA活動において、会員同士の相談体制が不十分であり、役員以外の声が出にくい。(会員がお互いに相談し、PTA活動に関われるように、すべての会員が4つの部会に所属するように組織改革を行った。)
- ・ すべての家庭に情報が届きにくい。(広報紙・HPでの情報発信をしている。)
- ・ 多様な関係機関との連絡・調整に時間がかかる。(関係諸機関との連絡を早め早めに取りようにする。)
- ・ 活動への参加者が固定化、減少している。(本部役員が中心となり、電話をかけることで、参加を呼びかける。対象児童学年の枠を広げている。)
- ・ 会員数の減少により、PTA組織運営が難しくなっている。(全家庭・全教職員がいずれかの専門部に所属し、全校体制で運営に取り組むようにしている。保護者の負担軽減のため、PTA役員会の開催回数を減らす他、行事などで保護者が集まった際に役員会や専門部会を開催するなど活動や組織の見直しを行う。児童、家庭数の減少に応じた組織のスリム化を検討している。計画的に話し合いを行い、負担軽減を図る。)
- ・ 男性保護者のPTA活動の参加が少ない。(男性保護者の参加を呼びかけているほか、男性に参加してもらいたい活動枠を別に設けたりしている。また、行事を企画する時に、父親の参加が容易になるように休日(日曜日)の実施を心がけるようにしている。)
- ・ 会員数の減少により、予算の確保が難しくなっている。(各地区の全戸に対して準会員費を負担していただいている。特別会計の一部を活用し一般会計に繰り入れている。経費削減に努めている。また、会費を増やすのではなく、やる気のある人で予算を「作り出す」活動を行っている。(タオルを寄付してもらい雑巾にして販売する。))
- ・ 参加者同士の親睦は深まっているが、子どもの教育に関して、PTAとして深い取り組みまで至っていない。(学校通信等での情報発信、講演会などの案内・実施、地区懇談会などで意見を集める。)
- ・ 役員の選出、役員数の確保が課題である。(会則を見直し、役員選出の規制を緩め選出しやすくした。会員数の現状に合わせた活動内容の見直し。)
- ・ 統廃合した学校のPTA活動をどのように取り入れていくか、また、どのように連携を図っていくか検討する必要がある。(地域との連携や他校との交流を図る。専門部会員を継続することで連携を密にする。今後は支部の統合も検討していく。)
- ・ 保護者間の人間関係の構築及び学校への信頼の向上。(情報等の共有を図りながら、「生徒の健全な成長を図る」という保護者・教職員の共通の目的に向かって活動を行う。)

(20) おやじの会の現状

- ・ 父親の参加が思ったより少ない。(PTA活動を中心に、参加を呼びかける。)
- ・ 仕事などでなかなか行事に参加できない会員が多い。(活動日を集まりやすい日や曜日に設定する。個別に声をかけて参加を呼びかける。)
- ・ 会員数の減少により例年通りの行事を行うには負担が大きくなっている。(会員以外へも参加を呼びかけ協力を得るようにしている。)
- ・ 行事の持ち方に対しさまざまな考えがあり、意識集約が難しい。
- ・ 参加者の減少、会員の不足、メンバーの固定化が起こっている。新入会員の勧誘と活動の引き継ぎ、部員数の確保が課題である。(チラシを配ったり、PTA行事の際に声かけを行い勧誘するほか、地域行事に協力したり、おやじ夜市などを

企画してPRに努める。SNS等で活動の紹介を行う。公民館や地域との連携を図る。家庭内で、父親役をしている方にも参加を呼びかける。）

- ・ 小中の連携を強化していきたい。（一年間のPTA活動を通してお手伝いをしていただいた父親に次年度会員になってもらうよう声かけをしている。）
- ・ 昨年度の活動に改善を加えながら児童が参加してよかったと思えるようなイベントになるようにしていきたい。（多くの児童や保護者に参加してもらうために、昨年は土曜日に行っていたイベントを日曜日に開催する。）

(21) 県内の登録博物館及び博物館相当施設の現状

- ・ 公開できる所蔵品の点数（＝展示スペース）に限りがある。（同一展示テーマ内（企画展会期中）で展示品の入れ替えを行う。）
- ・ 入館者が減少している。（イベント等の事業の追加と見直しを行い、更に広報宣伝活動の強化を図る。ポスター・チラシ等を作成し、関係機関に周知している。）

(22) 県内公共図書館の現状

- ・ 厳しい財政状況の影響を受け、資料購入、読書振興、施設維持管理すべての分野において予算が減少している。（図書館や読書に興味を持ってもらうためのイベントや行事を開催している。寄贈図書の協力を呼びかけている。）
- ・ 予算を獲得できる事業企画や、既存の事業の効果説明に取り組むことが課題になっている。（他の図書館や類縁機関と連携し、様々な機会を活用して利用者が求める知識や情報を提供するよう努める。）
- ・ 職員が不足している。（図書館ボランティアの募集）
- ・ 郷土資料が不足している。（寄贈資料の呼びかけをする等）
- ・ 児童書の貸出率の向上（子ども向け読書推進事業の実施）
- ・ 各館ともに所蔵能力の上限に達しつつあり、今後は除籍が多くなることが考えられる。
- ・ インターネット予約などの提供により来館機会が減少し、結果利用の減少に影響していると思われる。（イベントの開催などにより、来館機会を増やす工夫をしている。）
- ・ 本が未返却の状態で次の予約が入る時があり、返却がない場合は予約を待ってもらうケースがある。（督促を行っているが、再度の督促をしても応じない場合は、貸出者宅を訪問し回収を行っている。）
- ・ 貸出本の汚損（本の入院カルテの作成等、防止に係る啓発）
- ・ 一人ひとりが気軽に利用できる図書館づくり。（特別展示を工夫したり各種講座の充実を図る他、教育団体等関係機関との連絡連携を強化している（巡回団体貸出の推進など）。幼児・児童対象の読書通帳を発行するなど子どもの読書活動を推進している。）